



報 金 司 保 護

令和3年3月1日発行 北多摩北地区保護司会
発行責任者 会長 小峰立丸

清瀬市の金山調節池



新型コロナウイルス感染の中で

北多摩北地区保護司会
副会長 篠宮 正和

世界を震撼させ猛威を振るう新型コロナウイルス感染症が、昨年、中国で最初の感染者を確認した際は『対岸の火事』のこの様に捉えていたが、瞬く間に全国に感染拡大してしまいました。『緊急事態宣言』が発令され、生活や仕事に必要な外出の自粛が求められました。新型コロナウイルスへの感染症防止対策として新しい生活様式が公表され更生保護活動においても対象者との面接については電話等、代替手段での生活状況確認の様々な工夫が求められながら保護司活動が続けられております。ほとんどの小・中学校で卒業式・入学式が縮小され、春休みまで臨時休校となり、職場はテレワークなどが取り入れられています。新型コロナウイルス感染拡大防止の対応では、多くの人が家での自粛を求められました。この時間を苦しいと感じた人と、それなりに充実して過ごせた人、苦しいと感じた人は、生産性がない無意味な時間がどんどん過ぎていく感覚に、自分を責めてしまふと感じた人が多いようです。人は意味のない時間を大変嫌います。ただ生産性があることだけが意味のあることではなく特に六十代以上の私達の世代は、楽しんでいることに、なんとなく戸惑いみたいなものを持ってしまいがちです。このことが六十代の人たちの今後、大きな障害になるのではと感じています。おそらく定年後は、多くの人が社会の大きな歯車からだんだん外れていってしまうことが予想されるからです。仕事を中心とした価値観のままでは、定年後の生活で充実を得にくくなる。コロナの自粛で参っている人は、定年後の長期「自粛」生活に苦しむのではないのでしょうか。しかし自分が、何を楽しいと感じるかさえ分らないという人も多く、仕事だけが人生だった人は、仕事以外の楽しみを開発していないからだと思います。これからは楽しみのための自己開発が必要ではないのでしょうか。人生百年時代、もし今六十才半ばならまだ三十数年もあります。残りの三十数年をできるだけ充実した時間にするために、楽しみを開発を今から始めましょう。

この会報誌が発行される頃には新型コロナウイルス感染症が収束し穏やかで活力のある生活に戻りますようお願いしております。

令和二年度 第七ブロック 保護司組織運営連絡協議会

令和二年
十月二十九日
リモート方式
にて開催

コロナ禍の中、今年は開催自体が危ぶまれましたが、関係者の強い思いからウェブ会議システム（ZOOM）によるリモート方式で開催されました。

当番地区保護司会である府中地区保護司会がメイン会場となり、ブロック内の地区保護司会が各々リモート会場を設けました。

当保護司会では東久留米分区および当分区保護司・栗原健人氏の絶大なご協力により南沢氷川神社社務所内に会場が設置され協議員を始め総員二十名が参加しました。

今年度の協議会は「開かれた保護司組織について」、また協議事項は次の三項目です。

- ・保護司の育成について
 - ・地域の関係機関・団体との組織的連携について
 - ・協議会事前準備
- リモート方式での開催は初めて



のため、パソコン他通信機器をつなぎ当日前に二回のリハーサルが行われました。またウェブ会議の制約を補完するため協議資料にも工夫が施され、各協議員には意見書だけでなく今回はその内容への質問・回答書が事前配布されました。協議会を振り返って

コロナ禍に伴う種々の制約の中、開会挨拶は簡潔に、来賓挨拶は書面で、自己紹介は発表に含めて、等々の時間短縮の工夫の時間も、協議会是一時間半の中で行われました。

そして来賓からの講評では、「コロナ禍中にあっても工夫と努力によって協議会が立派に挙行できました」と祝意と謝意が述べられました。

今回の協議会では、各地区から諸々の課題が上げられましたが、組織運営の根底で共通しているの

は、保護司の安定的確保の問題であると改めて感じました。協議内容の詳細は、協議会結果報告書をご覧ください。

(総務部 小松 健二)

北多摩北地区保護司会 地域活動部の現状



北多摩北地区保護司会
地域活動部長
貫井 勝義

会の運営規定では、地域活動部は「犯罪防止のための世論の啓発、協力組織の強化推進及び社会貢献活動への協力・調査研究」とあり、「分区は保護区に倣い、会員はいずれかの部に属し活動する。」とし、よって各分区はそれぞれに運営規定を定め、活動をしています。北多摩北地区保護司会地域活動部のメンバーは、部長（分区別輪番制で分区の理事）と各分区の地域活動部正・副部長の十一名で、部会を年間に四回（六、九、十一月）開催し、各分区での活動の情報交換や研修会を行っています。しかし今年は新型コロナウイルスの影響が大きく、それらの情報を共有し対策などを検討すべく、六月の第一回部会は会場をサポートセンターのみでの出席にと変更して行いました。（九月と十一月は計画通り

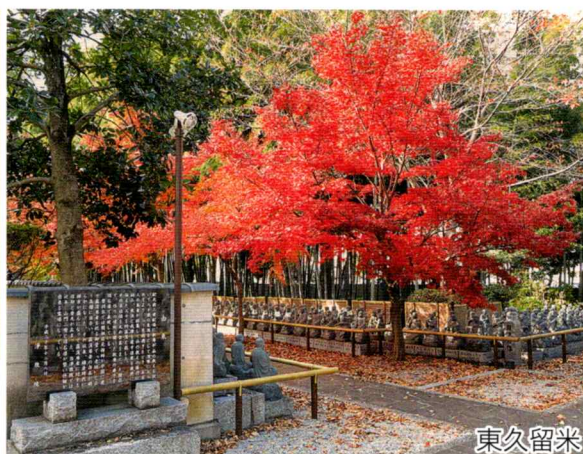
に開催）。

ところで、各分区の地域活動で主なものを簡単に紹介しますと、その中心は「社会を明るくする運動」で、強化月間での「駅頭での啓発活動」や、そのほかに市内小中学生が延べ数千人参加する校門でのあいさつ運動（西東京）、数百人が応募する小・中学生の作文コンテストやコンサート（清瀬）、市内の四十校の小中学校・高等学校を訪問し非行防止や情報交換、また市民まつりでの啓発パレード（小平）、「青少年の健全育成を考える集い」での講演活動（東村山）、市民の集い・音楽祭や書道・ポスター展（東久留米）などが各種団体の協力を得て行われていました。しかし今年度は、非接触による活動が望まれる中でほとんどが中止になりましたが、小中学生に依頼した作文のコンテストへの応募や、習字・ポスターの展示会による啓発活動、田無駅前の「アスタビジョン」で社明PR動画を放映するなど、各分区は制限された中での活動が行われていました。



小平

分区の風景



東久留米



清瀬



西東京



東村山

令和二年度東京更生保護事業関係者顕彰式典被顕彰者名簿

表彰

藍綬褒章(春)

近藤 満雄(東村山)

法務大臣表彰

國井 富枝(清瀬)

高日 孝子(小平)

寺本 亮寛(東久留米)

中野 良教(西東京)

全国保護司連盟理事長表彰

岡野 正義(東久留米)

佐々木 一平(西東京)

立川 裕子(小平)

比留間 克美(東村山)

関東地方更生保護委員会委員長表彰

菊間 英子(清瀬)

郡樂 道和(西東京)

嶋田 文子(西東京)

高柳 徹(西東京)

富田 敏明(小平)

貫井 勝義(東久留米)

前田 保正(小平)

関東地方保護司連盟会長表彰

大河内 一紀(西東京)

小林 章子(西東京)

島田 道明(東村山)

當麻 一哉(東久留米)

平野 徳司(西東京)

山崎 節子(西東京)

東京保護観察所長表彰

大竹 眞澄(小平)

北村 明美(小平)

小山 邦昭(東村山)

竹内 誠一郎(小平)

若林 弘子(東久留米)

東京都保護司会連合会会長表彰

新井 守彦(西東京)

岩本 重雄(清瀬)

小山 典子(東久留米)

櫻井 謙一(西東京)

島村 孝雄(小平)

下澤 由起夫(東村山)

西原 みどり(西東京)

藤田 英子(小平)

村田 正明(西東京)

感謝状

東京保護観察所長感謝状(家族功勞)

岡野 マサ子(東久留米)

篠宮 美恵子(東久留米)

受賞おめでとうございます

氏名掲載順は主催者が顕彰式典で配布予定であった名簿に従っています。



法務大臣表彰受賞の 思いについて

清瀬分区
國井 富枝

令和二年度 保護司等中央研修会におきまして、法務大臣表彰を受賞させて頂きました事、身に余る光栄と思い感謝致しております。また関係機関の皆様 北北保護司会の皆様、分区の皆様が私を心から支えてくださり、ご指導をくださった賜物と御礼を申し上げます。今年新型コロナウイルス感染拡大防止のため、法曹会館におきまして代表者のみの参加となり、式典の様子はYouTubeにて配信されました。平成十四年二月に保護司を拝命し、多くの対象者と出会いました。養育環境での愛情不足から、自分を大切にすることが出来なく、私の元へ来た少年達。その心に寄り添う面接の時には、必ず一つ褒め、励まし、話し合っていました。言葉は冷えた心を溶かし、言葉には人を動かす大きな力がありました。「たった一言が人の心を傷つけた」といった一言が人の心を温める。どんな新しい時代になっても、温かな言葉が更生の第一歩であってほしいものです。



人事 往来

○新任保護司

左記の方が新たに保護司として委嘱されました。どうぞよろしく、お願いいたします。令和二年十二月二十二日付



○任期満了保護司

- 令和二年十二月二十一日付 木村 和夫(小平分区) 在職十四年
 - 令和二年八月三十一日付 近藤 満雄(東村山分区) 在職二十二年
 - 令和二年十二月二十一日付 倉田喜久子(東村山分区) 在職二十二年
- #### ○退任保護司
- 令和二年十二月二十一日付 佐野 郁夫(小平分区) 在職十二年
 - 令和二年十二月二十一日付 岡野 正義(東久留米分区) 在職十八年
 - 令和二年十二月二十一日付 須貝 栄子(西東京分区) 在職十二年

悼

吉野 力(東村山分区)
令和三年一月十九日 逝去
享年 七十四歳
在職 十二年四か月

〔表紙写真説明〕 「金山調節池の概要」

調節池とは、川の氾濫による浸水被害を防ぐことを目的に、増水した水を一時的に貯留するため、川沿いの公園や道路の地下空間などを活用して造られた施設です。

金山調節池はそのひとつであり、大雨の時に柳瀬川の水を一時的に流入させて氾濫を防止するための施設で、面積三二、五〇五㎡、貯留量四六、〇〇〇㎡、排水方式・自然流下方式で柳瀬川中流域の洪水調節を目的として、平成六年三月に完成した東京都の施設です。

また、隣接する柳瀬川は河畔林と河原に恵まれ、清瀬金山緑地公園とも合わせて、水と緑の豊かな環境を形成し、特に、湿地部に配置された擬木の散策路は、柳瀬川の遊歩道と接続し、散策や自然観察フィールドとして多くの市民の皆さんに愛されています。

更に、調節池の湿潤な環境は、湿地性の多様な植生が発達しているため、昆虫・野鳥などが多く生息するビオトープとなっており、一年を通して貴重な野鳥の観察スポットであり、多くの愛鳥家や写真家が集まっています。

編集 後記

この一年余りコロナ関連で登場してきたカタカナ語を目や耳にする機会がずいぶん増えたような気がします。その一つとして最近距離が離れていても画面を見ながら会議を進行する「リモート」が利用されているようです。以前からこの方面に暗い人間としては怖気づいている始末ですが、苦手と称して背を向けている時代ではなく、振り返ってみると苦手と勝手に思い込んで少しも真剣に取り組んでいなかった自分を改めて発見する次第です。「見る前に飛べ」その昔弊がつて言っていたのを思い出したたびに赤面してしまいます。この歳になって悔い改めて挑戦するのは遅きに失した感もありますが取り組もうとする姿勢だけは持っていたいものです。さて、どうなりますか。

この二年間様々な関係の皆様にお世話になりました。ありがとうございます。なお、次の当番分区は東村山分区が担当致します。 森田健次

事務局 小平分区
TEL 〇四二(三四六)九五三七
FAX 〇四二(三四六)九九九八